

イエとムラの空間構成

新潟県佐渡郡相川町南片辺の事例

岩本通弥

はじめに

- ## 一 調査対象地の概 二 イエの空間構成 三 家族生活の諸相 四 ムラの空間構成 五 村落生活の諸相

論文要旨

本稿は、特定研究「民俗の地域差と地域性」の共同研究会が設定した基本調査項目にしたがつた、定点調査地、新潟県佐渡郡相川町南片辺のモノグラフである。南片辺は一九八五年現在、戸数三十九、人口一四七人の日本海に面した「海村」であり、生業は磯ネギ（海藻・貝類の採取漁と見突き漁）も若干行われているが、平均反別約六反の水田と広大な共有林を背景とした半農半林業のムラである。

（和）いわゆる社会的調査項目を含めながらもそれをイコトムラの空間の構成のあり方に焦点を絞り直して記述した。第一章の調査対象地の概況で、有半刀刃の也里内蔵左内野兄と七七豪形態につき本丸より生と召すべ、（合一章）

（土地）」という観念に注意すべきことを指摘した。

本稿は現地調査に基づく単なる報告であって、これといって結論めいたものはないが、ただ一つ、村落生活の実態とその編成のあり方を、かなり詳しく、かつ構造的に記述できたものと考える。今後の課題としては、本稿を踏まえ、南片辺住民のエミックで民俗的な観念や意識・心情・論理を描き出すことであり、その一つの視点として、デガミやダワケノシンルイなど、「チ

のイエの空間構成では、屋敷どり・間取りの使用法とその特徴、および家屋敷のなかの神々について扱った。それに続く第三章の家族生活の諸相では、家族構成の構造的特徴から、家族員の役割と分担、婚姻儀礼とヨメの長期里帰り慣行との相関、および世代階層制と家内地位との関係を論じた。第三章のムラの空間構成では、その生産領域を耕作地・山林・牧草地・磯浜に分けて記述し、また内部の村落空間を神仏の祭祀を含めながら象徴論的に捉えた。これを受けた第五章の村落生活の諸相では、村落運営のシステムと、南片辺の村落構造を特徴付ける年齢集団のあり方、および葬送儀礼と供養の様相を論述した。